

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 佐賀県日本語学習支援“カスタネット”

1. 事業の趣旨・目的

外国籍住民、及び外国にルーツを持つ住民が日本語を習得するための支援を行い、彼らが日本で生活する第一歩を踏み出す幫助、及び言葉の支援を通して地域のよりよい共存社会の構築に寄与する。

ボランティアには難度が高い初級者向けの講座を日本語教育専門家が短期間で集中して開講することにより、受講生にとっては、短期間での日本語の基礎力の習得が可能となり、その後のボランティア教室での学習継続を容易にする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月9日 15:00～ 16:30	佐賀市アイス クエアビル	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 (佐賀市) 馬場氏	日本語集中講座調整	広告知方法 テキスト最終確認 開催経費
5月31日 10:00～ 11:00	唐津市役所	貞松明子 有瀬尚子 池上順子 (唐津市) 中野氏	集中講座開催につい て	広報方法 配布テキスト 担当講師について 託児について
6月8日 10:00～ 11:00	鳥栖市役所	貞松明子 有瀬尚子 池上順子 (鳥栖市) 村山氏 長野氏	集中講座開催につい て	広報方法 配布テキスト 担当講師について 託児について

6月8日 14:30～ 17:00	佐賀市アイス クエアビル	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 (佐賀市) 馬場氏	集中講座開催について	唐津市開催の総括 反省点、問題点 鳥栖市開催について
9月16日 10:00～ 11:00	唐津市役所	貞松明子 有瀬尚子 池上順子 (唐津市) 中野氏	唐津市日本語集中講座について	唐津市開催の総括 反省点、問題点 今後に向けての提案等
10月24日 10:30～ 11:30	鳥栖市役所	有瀬尚子 (鳥栖市) 村山氏 長野氏	鳥栖市日本語集中講座について	鳥栖開催の総括 反省点、問題点 今後に向けての提案等
2月17日 15:00～ 18:00	佐賀市アイス クエアビル	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 (佐賀市) 馬場氏	初級日本語集中講座について	全集中講座の総括 次年度の活動について



唐津市役所にて運営委員会。今回のクラスの様子や、次年度の取り組みについて話し合った。

3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 初級にほんご集中クラス
- (2) 開催場所 佐賀市(2回)、唐津市、鳥栖市

(3) 学習目標

外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ学習意欲を継続させる。

(4) 使用した教材・リソース 自作テキスト「にほんごインテンシブ」

(5) 受講者の募集方法

チラシ配布、市報への掲載、市民課(外国人登録課、学校教育課、福祉課、各公民館、保健センター等)への周知及びチラシ設置、ボランティア教室への周知、チラシ設置、新聞、コミュニティFMの取材、出演等

(6) 受講者の総数 26 人

(出身・国籍別内訳: フィリピン 6人、インドネシア 3人、中国 9人、韓国 1人、ブラジル 2人、ネパール 1人、スリランカ 2人、フランス 1人、モルドバ 1人)

(7) 開催時間数(回数) 各回 36時間 (全 4回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月9日 7月10日 7月12日 7月13日 7月15日 7月16日 7月17日(発表会 10:00~12:00) 9:00~16:00	38時間	9人	ブラジル・ポルトガル語(2人) 韓国・韓国語(1人) 中国・中国語(3人) インドネシア・英語(1人) フランス・フランス語(1人) スリランカ・英語(1人)	教授者3人 補助者3人	初期日本語学習 自作教材使用
②	8月4日 8月5日 8月6日 8月8日 8月9日 8月10日 8月11日(発表会 10:00~12:00) 9:00~16:00	38時間	8人	フィリピン・英語(3人) モルドバ・英語(1人) 中国・中国語(3人) インドネシア・インドネシア語(1人)	教授者3人 補助者3人	初期日本語学習 自作教材使用

③	9月21日 9月22日 9月23日 9月24日 9月25日 9月26日 9月28日 9月29日(発表会 10:00～12:00) 9:00～16:00	44 時間	4 人	中国・中国語(1人) ネパール・ネパール語 (1人) スリランカ・英語 (1人) フィリピン・英語 (1人)	教授者 3 人 補助者 4 人	初期日本語学習 自作教材使用 *学習者0名の日があったため 1日追加開講し、7日間となった。
④	1月22日 1月23日 1月24日 1月27日 1月28日 1月29日 (発表会 16:00～18:00) 9:00～16:00	38 時間	5 人	中国・中国語(2人) フィリピン・タガログ語(2人) インドネシア・英語(1人)	教授者 3 人 補助者 2 人	初期日本語学習 自作教材使用

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)



佐賀市7月開催「初級にほんご集中クラス」1日目
みなさんまだ緊張の様子。ひらがな、あいさつなど基本を学んだ。



鳥栖市 9 月開催「初級にほんご集中クラス」交流会
地域のボランティア教室の方も参加した。学習者は学んだ日本語を使って自分の気持ちを発表した。そのあとおしゃべりしながら交流を深めた。

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

日本語の初級文法の入り口を開き、日本語の基本体系を理解することができた。その後、地域のボランティア教室へ参加し、大半が継続して学習している。そのうえ、日本語の文法のみならず、漢字や書道など様々な学習を始めた人もいる。

日本で生活するための言葉の支援としての目的は達成されたと考えている。簡単なコミュニケーションが取れるようになり、働く意欲が出て働き始めた人もいる。また、母国の文化講座などの講師を務めたりして、社会への参加を果たしている。

(2) 学習者の習得状況

初級の文法で最低限、これだけはこのものだけに絞り込んだので、必要な文法知識が理解できた。今まで耳で聞いて話し言葉だけを話していた学習者が、文字で日本語を見、正しい日本語表記を知った。日本語文法を学習することで、今まで漠然と使っていた日本語の体系を理解できた。

宿題は穴埋めや選択式のものではなく、文を産出する形式のものにした。時間をかけて自分の言葉で作文する様子が見られた。宿題の量も「ちょうどよかった」という答えが 79%で最も多かった。

※参考資料参照(アンケート集計結果)

(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

短期間、集中のクラスなので、低予算で開催できた。長期間教室へ行くわけではないので、小さい子供がいる主婦や、働いている人、来日直後の人が参加することが出来た。地域ご

とに開催したことで、佐賀市まで行けなかった人や、今まで勉強することが出来なかった人に対して、勉強の機会を与えることが出来、その結果、勉強することに楽しみを見出したようだった。地域に住んでいる同じような境遇の人と出会い、毎日の集中講座で仲が良くなり、講座修了後も連絡を取り合ったりする様子が見られた。

託児を設けたことで、小さい子供がいる母親・父親も安心して勉強することが出来た。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回初めて開催した唐津市・鳥栖市の担当者には企画段階から参加してもらい、告知方法、会場や託児の手配などを話し合って決めた。市が名義後援になったことで、担当者が授業の様子を見に来て、最後の発表会や交流会にも参加したことにより、当該地域にいる外国籍市民の存在や問題点などに気づき、ボランティア教室との連携を図ることの重要性に気づいた。この事業を継続させることで、より連携を深め、いずれは各市の主催事業になるよう働きかけていきたい。

佐賀市では、佐賀市国際交流協会の主催で年に 2 回開講することができていたが、この委託事業のお陰で、年 4 回の開講が実現した。佐賀市周辺の外国籍市民は、3 か月待てば、講座に参加できることになった。このような定期的な開講こそ、来日間もない外国籍市民に対する言語保障のモデルになり得る。現在は佐賀市国際交流協会の事業であるが、佐賀市の事業として年 4 回の開講が実現するまで、働きかけを続けていきたい。

毎回集中クラス終了後、地域のボランティア教室への橋渡しを行った。発表会と交流会にボランティアに来てもらい、学習者と面談してボランティア教室へ行くことを勧めた。そうすることで継続学習が可能になり、日本語上達へとつながった。ボランティア教室では初級学習者への文法指導の負担が軽減され、また、新規の学習者が増え、教室活動がより活発になった。

(5) 改善点、今後の課題について

① 現状

アンケートでは講座の開講期間について聞いているが、「1 週間」という期間設定に、「ちょうどいい」と答えた人が 47%、「土、日がいい」が 37%だった。「1 日 6 時間」という長さについては「ちょうどよかった」が 79%という結果だった。一般的には長すぎるように思われがちだが、受講者の 8割が適当と感じている。「土、日がいい」と答えた学習者はもうすでに働いている人がいたため仕事を休んでは来られないという事情があったようだ。講座の期間や 1 日の授業時間も短すぎず、長すぎず適切だったと考えている。

クラスの人数をアンケートで尋ねたところ、「ちょうどよかった」と答えた人が 79%、「すくなくかった」と答えた人が 21%だった。「すくなくかった」と答えたクラスの人数は 5 人以下のクラスだった。クラス構成としては 5 人以上 10 人未満くらいが適切のようだ。

※参考資料参照(アンケート集計結果)

② 今後の課題

来日間もない外国人に日本語学習の第一歩を踏み出させる手助けをしようと始めた「初級にほんご集中クラス」なので、地域差があってはならないと思う。1週間集中して勉強できる環境を、どの地域でも作れるようにコーディネートしていくことが課題である。子供がいてなかなか外へ出られない人も、交通手段を持たない人も、近くで講座が開催されれば受けられる。

せっかく第一歩を踏み出しても、継続して学習できなければ意味がないので、当該地域にボランティア教室があることが前提で始められる事業と言える。佐賀県はボランティア教室がない地域がほとんどなので、まずは、ボランティア日本語教室を作ることから始めなければならない。既存の教室とは、メンバーとのコミュニケーションを取り、学習者の学習状況へ助言をするなどの連携を強めたい。

「初級にほんご集中クラス」を開催するという情報を伝える手段を、地域行政担当者との連携の上で考えなければならない。外国人やその家族に確実に周知できる告知方法はないか、情報を得にくい人が多い現状を打開する策を練っていきたい。一般市民に周知することから始めようと考えている。

テキストに関しては、修正を加え、より使いやすい教材にしていく。また、それに伴う教具（絵カードなど）を整え、出版も視野に入れた汎用性のあるものにしていく。

③ 今後の活動予定, 展望

今回初めて唐津市と鳥栖市で講座を開いたが、他地域へも活動を広げていきたい。継続的に講座を開くことで、行政主導の活動へと移行させたい。そのためには、行政担当者や地域のボランティア教室との連携をより深める必要がある。教室の様子を随時見ること、その後の受講者の学習状況や生活状況を把握するつもりだ。

長年住んでいても体系的に勉強したことがなければ、日本語を使って相手に正確に伝えることが出来ない。そういったことを学習者の家族や周りに住んでいる人、ひいては市民全体が知識と知っておくことが重要である。家族のみならず、市民に対して「日本語教育、日本語が話せない実情」などを周知する活動を行う必要性を感じている。

2012年3月末に、佐賀市国際交流協会主催で「初級にほんご集中クラス同窓会」が開催されることになった。集中クラス受講後の学習や交流の様子を、学習者から直接聞ける機会になる。本来はアンケート等で追跡調査を予定していたが、「同窓会」の企画が浮上したため、そちらに切り替えることにした。どのような話が聞けるか、楽しみにしている。

(6) その他参考資料（郵送）

- ・集中講座のチラシ
- ・講座の日程表
- ・アンケート集計結果